人間科学研究所通信

Newsletter of the Institute of Human Sciences
Musashino University

第13号

目次
Contents

●社会的養護から大学進学、そして卒業へ――――2
●<Key Note> 社会的養護を経験した
　若者の大学等へのアクセス・卒業へのサポート――――2
●パネルディスカッション――――3

2024 年 2 月 25 日（日）に、武蔵野大学武蔵野キャンパス雪頂講堂にて人間科学部社会福祉学科シンポジウムが開催され、学内外から 80 名余の参加がありました。本号では、コーディネーターを務めた社会福祉学科永野咲准教授による「社会的養護から大学進学、そして卒業へ」についての開催報告を掲載します。シンポジウム第一部では、米国ワシントン大学よりお招きしたソーシャルワーカーお二人によるご講演。第二部では、4名の当事者・支援者のパネルディスカッションが開催され、登壇者とフロアとの活発な意見交換などもなされ、大変有意義なシンポジウムとなりました。

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

Musashino University
武蔵野大学

「社会的養護から大学進学、そして卒業へ―大学が果たすべき役割を考える」開催報告

武蔵野大学 社会福祉学科　准教授　**永野 咲**

虐待や貧困などのさまざまな理由で、家族による養育を受けることが難しい場合、児童養護施設や里親家庭などで代替養育を提供する仕組みが「社会的養護」である。日本には、約４万人の子どもが社会的養護を利用し生活しているものの、特に社会的養護からの大学等進学は 22.6%(全体 56.1%) と大きな格差がある。さらに、その後の「卒業」を達成する割合については、公的なデータすらない。

2020 年に初めて実施された国による実態把握調査では、「最終学歴」が４年制大学との回答が 2.0%にとどまっている。この調査では回答率が 14.4 %であったことから、現実はもっと厳しい状況であることも推察されている。これらの状況を踏まえ、社会的養護を経験したのちに大学等進学を果たした若者の進学にとどまらず、「卒業」をどう支えるか、大きな課題となっている。

そこで、今年度のシンポジウムでは、この進学格差を超えて大学入学を果たした若者たちの卒業までをどのように支えていくことができるかをテーマとして設定した。

<Key Note> 社会的養護を経験した若者の大学等へのアクセス・卒業へのサポート

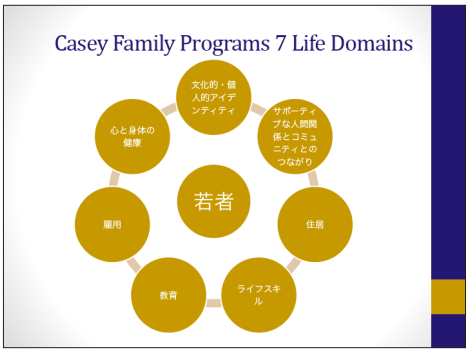
Cierra Draper-West, MSW, LICSAW　**Melissa Raap, MSW**

第一部の Key Note として、米国のワシントン大学から、チャンピオンプログラムを担当する常駐のソーシャルワーカーである Melissa Raaps さんと Cierra Draper-West さんに来日いただき講演いただいた。

チャンピオンプログラムは、社会的養護を経験した学生またはホームレスを経験した学生の支援に特化したサポート部署として、ワシントン大学内に 2009 年に立ち上がった。現在では、毎学期 120 人以上の学生を対象とし、３名の常勤スタッフでサポートを提供している。

対象となる学生に社会的養護のもとにいる若者や保護者のいないホームレスの若者をワシントン大学の学士課程にリクルートし、入学後は、ワシントン州における社会的養護の若者や保護者のいないホームレスの若者のための確立された教育サービスを支援する。具体的には、社会的養護を経験したり、保護者のいないホームレスの若者に対し、彼ら特有の状況や背景を踏まえた直接的な支援を行う。また、プログラムの対象となる学生のニーズをサポートするために、学内のスタッフや教員による協力的なネットワークを構築する。さらには、キャンパスにおける社会的養護への偏見をなくし、社会的養護の文化について学び、認識する環境を作るための活動を行なっている。

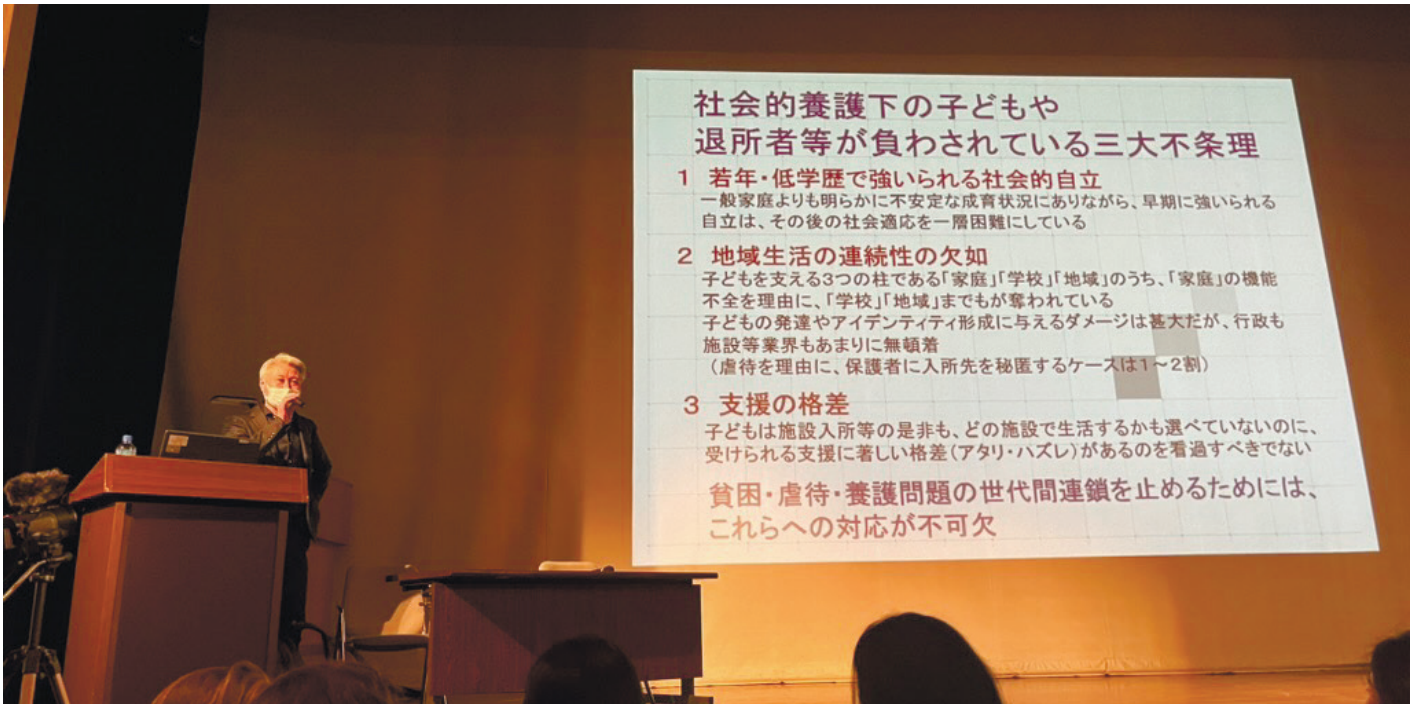
講演では、チャンピオンプログラムの成り立ちから、どのようなサポートを提供しているのか詳細を解説してくださった。また、自身もかつてはチャンピオンプログラムの元利用者であり、現在はソーシャルワーカーとして支援を行うシエラさんが、プログラムの意義について語ってくださったのも印象的であった。



パネルディスカッション

第二部では、パネルディスカッションを開催した。

児童養護施設子供の家の施設長、早川悟司さんからは、社会的養護を必要とする子どもや若者が不利を負わされている現状について、説明いただいた。措置解除後にも困難が継続する中で、日本の支援制度を活用している事例についてもご紹介いただいた。同時に、こうした措置解除後の支援を実施するかどうかは、施設や自治体の裁量に委ねられており、実施が低調であることも報告された。



次に、社会的養護のもとでの生活を経験した若者の参画を目指す NPO 法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンスから、中丸冬葵さんと SUZU さんに登壇いただき、社会的養護を必要とした背景、4 年制大学に進学した後卒業までに存在したハードルについてお話しいただいた。特に、経済的なことについて、親族から約束していた学費が振り込まれなくなったことで心身の状況が悪化したこと、どのくらいアルバイトをしなければならないか常に不安だったことなどが語られた。誰にも頼らずに生きていきたいと思う反面、家族連れを見る際の心の揺れなど、語られて初めて気づく視点も多かった。大学に望むサポートとしては同じ経験をしたピア同士の集まりの場について提案がなされた。

武蔵野大学人間科学部社会福祉学科が設置する学修支援室のキャンパスソーシャルワーカーである佐久間桃子さんに、学修支援室の取り組み内容について報告いただいた。2020 年に社会福祉学科内に設置された学修支援室は、誰もが気軽に相談できる場学業を継続するための相談室であり、年間で 300 件を超える相談が寄せられている。レポートの書き方から学費の心配まで多様な相談に対応する中で、学業以外の多様な悩みが語られることも少なくなく、大学外の支援機関につなぐこともあると報告された。今後は社会福祉学科以外のニーズへの対応や、人員・予算の確保、奨学金制度の充実などの課題も少なくなく、大学としての役割の大きさについても提示された。

最後に

最後に、フロアと登壇者とのディスカッションが行われた。他大学で支援を構想されている参加者から、社会的養護から進学してきた学生にスティグマを感じさせないようにプログラムを周知する方法などについて質問が寄せらせ、活発な意見交換がなされた。

今回のシンポジウムから、さまざまな困難を経験した後、大学進学を決意し、入学してくる学生たちをどのように支えていくべきか、改めて大学の役割の大きさを感じることとなった。学業の機会を得ることは、社会的養護を必要とした若者たちのエンパワメントに寄与する可能性も大きい。一方で、これまで語られることの少なかった大学で経験する葛藤や苦悩についても知ることとなった。多様な学生の学びを支える場としての大学がどうあるべきか、武蔵野大学も新しい一歩を踏み出していきたい。

2023（令和５）年度人間科学研究所構成員一覧

	氏　名	所属等
所　長	辻　恵介	本学人間科学部長兼人間社会研究科長
運営委員	泉　明宏	本学人間科学部教授
	渡辺　裕一	本学人間科学部教授
	中島　聡美	本学人間科学部教授
	菊池　安希子	本学人間科学部教授
	熊田　博喜	本学人間科学部教授
	城月　健太郎	本学人間科学部教授
	五島　直樹	本学人間科学部教授
	北　義子	本学人間科学部教授
	野口　友紀子	本学人間科学部教授
研究員	一ノ瀬　正樹	本学人間科学部教授
	岩本　操	本学人間科学部教授
	大崎　広行	本学人間科学部教授
	小俣　智子	本学人間科学部教授
	木下　大生	本学人間科学部教授
	小嶋　知幸	本学人間科学部教授
	小高　真美	本学人間科学部教授
	小西　聖子	本学人間科学部教授
	西本　照真	本学人間科学部教授
	稗田　里香	本学人間科学部教授
	北條　英勝	本学人間科学部教授
	矢澤　美香子	本学人間科学部教授
	渡邉　浩文	本学人間科学部教授
	出野　美那子	本学人間科学部准教授
	永野　咲	本学人間科学部准教授
	日野　慧運	本学人間科学部准教授
	上間　清司	本学人間科学部講師
	今野　理恵子	本学人間科学部講師
	櫻井　真一	本学人間科学部講師
	福沢　愛	本学人間科学部講師
	淺野　敬子	本学人間科学部講師
	佐々木　洋平	本学人間科学部助教
	嶋田　真理子	本学人間科学部助教
	清水　潤子	本学人間科学部助教
	成澤　知美	本学人間科学部助教
	羽毛田　幸子	本学人間科学部助教
	畠山　恵	本学人間科学部助教
	柳　延希	本学人間科学部助教
	岡　寿子	本学介護福祉別科教員
	小野内　智子	本学介護福祉別科教員
	松本　真一	本学介護福祉別科教員
客員研究員	橋本　修左	本学名誉教授
	北岡　和彦	本学名誉教授
	大山　みち子	本学名誉教授
	小西　啓史	本学名誉教授
	藤森　和美	本学名誉教授
	野村　信夫	本学客員教授
	狐塚　順子	本学客員教授
	堀越　勝	本学客員教授、国立精神・神経医療研究センター：認知行動療法センター　特命部長
	小松　美智子	本学客員教授
	磯貝　隆夫	本学客員教授、福島県立医科大学　ふくしま国際医療科学センター教授
	小原　収	本学客員教授、かずさ DNA 研究所臨床オミックス解析グループグループ長
	菅野　純夫	本学客員教授、東京大学名誉教授、東京医科歯科大学・難治疾患研究所・非常勤講師
	夏目　徹	本学客員教授、産業技術総合研究所生命工学領域
	新家　一男	本学客員教授、産業技術総合研究所・創薬基盤研究部門・グループ長
	宮崎　純一	本学客員教授、大阪大学産学連携本部　特任教授
	山崎　美貴子	本学客員教授、神奈川県立保健福祉大学前学長
	山本　雅	本学客員教授、沖縄科学技術大学院大学　細胞シグナルユニット教授
	家村　俊一郎	本学客員教授、福島県立医科大学　ふくしま国際医療科学センター教授
	市山　浩二	本学客員准教授、インテグリカルチャー株式会社　研究開発グループ
	河村　義史	本学客員准教授、バイオ産業情報化コンソーシアム JBIC 研究所特別研究員
	若松　愛	本学客員准教授、バイオ産業情報化コンソーシアム JBIC 研究所特別研究員
	熊谷　亮	プロテオブリッジ株式会社　代表取締役
	小林　慎	産業技術総合研究所・細胞分子工学研究部門・主任研究員
	福田　枝里子	産業技術総合研究所・細胞分子工学研究部門・動的創薬モダリティ研究グループ研究員
	野田　昇太	本学人間社会研究科非常勤講師

武蔵野大学人間科学研究所通信 | 第13号 |
Newsletter of the Institute of Human Sciences Musashino University

企画編集・発行 / 武蔵野大学人間科学研究所　発行日 / 令和６年３月31日

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

Musashino University
武蔵野大学

www.musashino-u.ac.jp
武蔵野大学 人間科学研究所
〒135-8181 東京都江東区有明 3-3-3
Tel.03-5530-7448